

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	長野県	事業実施主体	上田市	地域再生計画名	産業・雇用を支え活力ある地域社会を形成する道づくり計画
計画期間	令和4年～令和8年	評価責任者	上田市都市建設部部長		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	地域再生計画の目標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価	
	目標 1	製造品出荷額等	5,255億円	R元	5,270億円	R6(R5)	5,815億円	5,400億円	R8	○	指標総数	達成数	中間目標値を達成している（公表最新データがR5年度のため、R5年度の結果を実績値とした。）。
	目標 2	工業団地従業者数	3,800人	R3	3,850人	R6	3,870人	4,000人	R8	○	4	3	中間目標値を達成している。
	目標 3	森林整備面積の増加	0ha	R3	0.5ha	R6	1.9ha	1.5ha	R8	○			既に最終目標値を達成している。
	目標 4	自然運動公園利用者	99,600人	R元	101,000人	R6	82,110人	105,000人	R8	×			中間目標値に達していないが、利用者数は増加傾向にある。
②事業の進捗状況		事業名		整備量（その他の事業では取組内容）		事業の進捗状況に関する評価							
			計画	中間年度(R6)	最終実績見込み								
特別措置を適用して行う事業	市道富士山運動公園線		1,070m		675m		路線延長からみる進捗率は63%である。舗装の劣化が著しく、想定以上の単位面積当たりの修繕費用の増加や、人件費や物価の高騰などの工事費の増加から計画に遅れが生じている。						
	市道下之郷須川線		400m		160m		市単独費を用い実施している。路線延長からみる進捗率は40%であり、計画の遅れはあるが、引き続き市単独費を用い整備する予定である。						
	市道久保峠線		700m		700m		当初計画に対し、路線延長からみる進捗率は100%であり整備が完了している。						
	市道東塩田11号線		330m		360m		当初計画に対し、路線延長からみる進捗率は100%以上であり整備が完了している。						
	林道原峠線		200m		167m		当初計画に対し、路線延長からみる進捗率は84%であり、計画の遅れはあるが、引き続き市単独費を用い整備する予定である。						
計画外で独自に実施した事業（その他の事業）	産金官連携雇用創出事業		ものづくり関連企業に対し、金融機関の融資と協調して支援することで雇用創出につなげ、市内経済の活性化を図る。				当該事業は廃止となったが、後継事業として「生産性向上等投資促進事業」、さらに後継の「人材不足対策投資促進事業」を行い、企業の生産性を高める設備投資を促進している。						
	ものづくり企業相談体制整備事業		ものづくり企業の販路開拓・拡大に向け、相談体制の充実とともに官商圏等での展示会でブースを確保し、販路拡大機会の提供を図る。				当該事業は廃止となったが、「中小企業者等販路拡大事業補助金」事業により販路拡大の支援を行っている。						
	基幹産業支援体制整備事業		製造業の同業種グループが実施する共同受発注の体制づくり等を行い、企業の潜在成長力を引き出す。				市内製造業の安定成長を促すため、同業種グループを形成して産業展・商談会等での販路開拓・拡大を実施する取組に対し、継続した支援を行っている。						
	新技術等開発事業		新技術の開発又は新産業の創出のため、要件を満たす研究開発に要する経費の助成を行う。				市内中小企業者等の新技術開発やイノベーションの創出等を目的に継続した支援を行っている。						
	植樹活動		国土緑化運動の中心的な行事である全国植樹祭の上田会場が自然運動公園（東山市有林）で行われた。				平成28年度に約3,900本の苗木が植樹された（長野県、公益社団法人国土緑化推進機構事業）。						
	全国植樹祭会場後地利用事業		全国植樹祭の開催地に、ウッドデッキ、松くい虫被害材を活用したオブジェ、案内看板、自然解説看板を設置し、市民に親しまれる里山整備の促進を図る。				平成29年度～令和元年度にかけて、全国植樹祭の開催地に、ウッドデッキ、松くい虫被害材を活用したオブジェ、案内看板、自然解説看板を設置し、市民に親しまれる里山整備の促進を図った。						
	森林整備事業		東山市有林における良質な木材（ヒノキ）育成のための森林整備				令和5年度から令和6年度において、除伐1.93haを実施した。						
	信州の木活用モデル事業（森林病害虫被害枯損木利活用事業）		東山市有林において、松くい虫被害により枯損したアカマツを伐倒のうえ県内にあるバイオマス発電施設に搬出してバイオマス燃料（チップ）を行う。				令和4年度と令和6年度において、択伐3.29haを実施して枯損木約177mをバイオマス燃料化した。						
	主要地方道別所丸子線鈴子バイパス整備事業		上田市環状道路に位置付けられた主要幹線道路であり、東道田林間工業団地を連絡し、特に三才山トンネル方面へのアクセスが飛躍的に向上する道路整備事業。				令和2年度より実施中である（長野県事業）。						
有料トンネル無料化		長野県道路公社が管理運営していた3つの有料トンネルの無料化。				平井寺トンネルは平成30年、三才山トンネルは令和2年に無料化、新和田トンネルは令和4年に無料化となった。これにより、周辺地域との交流が活発化している（長野県事業）。							
市道久保峠線整備事業		主要地方道別所丸子線を補完する幹線市道の狭隘区間を拡幅し、安全性の向上を図る。				令和2年度、市道拡幅を165m実施した。							
③評価方法		上田市地方創生推進協議会を開催し、中間目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。											
④中間評価の公表方法		上田市土木課のホームページに掲載予定。											
⑤計画全体の総合評価		本地域再生計画では、地方創生整備推進交付金を活用し、上田菅平ICをはじめとした高速交通網に連絡する市道の新設・舗装修繕を行い安定性と快適性を確保することにより、更なる産業振興を図るとともに、林道整備も一体的に実施し、東山市有林の利活用を促進していき、様々な分野の施設への利便性を向上させ、地域の雇用創出と活力ある地域社会の形成を目指すものである。 ・中間目標値については目標4のみ未達成となっている。目標4について、利用者数は増加傾向にあるが、新型コロナウイルス感染症の影響が残り、中間目標値に達しなかった。最終目標達成に向け、実情に則した計画の見直しを行い、地域再生計画の達成を目指す。 ・事業進捗は市道富士山運動公園線において、舗装の劣化が著しく、修繕費用が増加したことや、人件費や資材単価の高騰などにより工事費が増加した。このため進捗が遅れており、計画期間内での達成が困難であることから、地方創生道整備交付金の全体事業費の増、事業期間の1年延伸を検討し、計画変更を行う必要がある。 ・今後も最終目標値達成のため、各種取組みを継続して進め、地域再生計画の達成に向け、本事業を推進することが必要。											
⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況					有りの場合その具体的内容							
	地域再生計画の見直し（有・無）					事業を引き続き実施することで、目標は概ね達成する見込みだが、計画当時と現在の社会状況では一部に齟齬が生じているため、計画内容の変更認定申請を行う。							
	令和9年度予算要望額への反映（有・無） 有りの場合の増減額 市道富士山運動公園線15,000千円の増					近年の人件費や資材単価の高騰による工事費用の増、働き方改革による工期の延伸のため、全体事業費の増と事業期間の1年延伸を要望する。							
⑦今後の方針等に対する対応		事業期間延長計画の変更の認定申請を予定 ●市道富士山運動公園線における事業費の見直し ・整備事業量 認定時1,070m→見直し後1,070m [増減なし] ・令和9年度の事業費 認定時0千円→見直し後30,000千円 [30,000千円（うち交付金15,000千円）増] ・総事業費 認定時250,000千円→見直し後280,000千円 [30,000千円増（うち中間評価結果を反映した増加額30,000千円（うち交付金15,000千円）増]											